

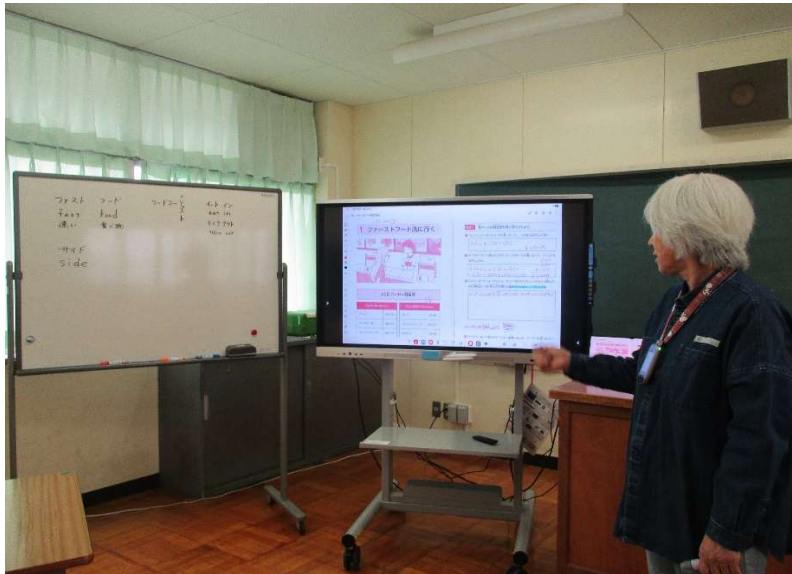
令和6年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立沼津聴覚特別支援学校 P T A	
学 校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
	全校児童・生徒数	24人

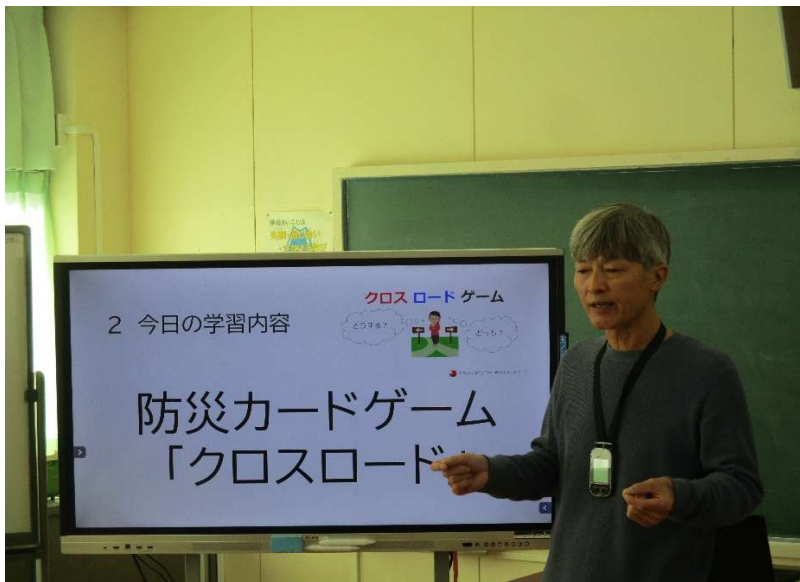
1. 使用状況

寄贈物品名	電子黒板（ディスプレイ型）
使用学年及び人数	高等部 1、2、3年 5人
使用頻度	毎日 それぞれの学年 数学、英語、産業社会と人間等で使用
使用状況	<p>産業社会と人間:話し合い活動時にホワイトボード機能を使って語録を提示、資料やインターネット検索ページを共有するために使用。</p> <p>コミュニケーション英語:教科書付属の音声教材の提示、ワークシートの答え合わせのため学習支援アプリに解答入りワークシートをアップして提示、練習やまとめとして学習支援アプリで作成したテストを提示。</p> <p>数学:デジタル教科書の提示、タブレットやPCと接続して、ホワイトボード機能の使用、インターネットを使用して調べ学習でも使用。</p>
物品の使用による変化や効果	<p>生徒がペンを使用した書き込みに興味関心が高いため、進んで意見を書こうとする姿が見られ、注目して授業を受けることができた。電子黒板を使用して学習を繰り返し行うことで英語の文法の定着につながることができた。</p> <p>高等部3年生の生徒が、黒板の使用する際に発生する音が苦手なため、電子黒板を使用することで不快な音を抑えることができた。</p> <p>生徒に提示する資料の文字が小さい時には拡大して提示することができ、さらに、画面に直接入力ができることで生徒が問題に取り組みやすかった。ペン機能を使用して情報を整理したり、計算の解き方を確認したりできた。</p> <p>教師は、タブレットで入力し、生徒は画面に記入することでお互いの記入したものが分けて提示できた。HDMIとUSBで電子黒板での操作ができ、tram Screen利用で離れた場所でもタブレット操作ができ、提示しやすい。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>GIGAスクールに向けて、教材の活用ができた。視覚教材を適所で活用することで、生徒の理解や興味関心の深まりが見られた。画面を分割し、半分はPCやタブレットの表示、半分はホワイトボードやインターネット表示など使い分けられるともっと幅が広がる。タイマーを縮小しても数字だけでなくタイムタイマーのような円の形で表示できると良い。</p> <p>教師による活用方法の研修が必要。</p>
その他希望や所感など	<p>実物投影機や生徒の一人一台端末と接続して効果的に活用できると良いと思う。また、ペンの色や太さを変えたい時に時々不具合を感じることもある。</p>

2. 活用の様子



数学の授業で電子黒板を使用して行った。ワークシートを提示し、生徒が問題を解くときに直接ペンで記入したり、教師が解き方をペンで記入し解説したりして授業を行っている。



授業の中で、学習目標・内容を提示したり、話し合い活動時にテーマを提示したりした。また、話し合ったことを全員で共有するのに、ホワイトボード機能を使用したり、話し合ったことを記録に残したりするのに活用した。インターネットを使用し調べ学習をしたり、検索ページを共有したりすることにも活用した。

